

これまで懸命に**努力**し、
みんなで**助け**合ってきた。

流失を乗り越えて再び架かる橋や

鉄道の復活決定に**勇気**をもらった。

子どもたちの**元気**な声に**励ま**され、

大人たちも新たなまちづくりに**全力**で取り組んでいる。

みんなが願う復興の歩みは**勢い**を増し、

球磨川流域の希望湧く未来に向かって

これからも**力**強く歩んでいきます。

多くの**力**が、 大きな**力**に。



©2010 熊本県くまモン

令和2年7月豪雨から5年

球磨川流域に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨において犠牲となられた方々に対し、改めて哀悼の意を表するとともに、ご遺族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。

被災後、多くの方々がこれからの生活に大きな不安を抱えて過ごしてこられたことと思います。こうした不安を払拭し、一日も早く被災前の日常を取り戻せるよう、国・県・地元市町村、災害ボランティアや住民の皆様など、あらゆる方々が連携し、住まい・なりわいの再建や道路・橋のインフラ整備、新たなまちづくりに向けて、全力で取り組んできました。

現在も復旧事業などでご不便をおかけしていますが、被災地に足を運ぶ中で、「新しいことにチャレンジしたい」という声をよく耳にするようになりました。昨年改訂した「新時代共創復興プラン」においても、「愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が「残り・集う」持続可能な地域の実現」を目指す姿として掲げ、地域に元気を取り戻す新たな取り組みを進めることとしています。

発災から5年の節目を迎え、肥薩線の復旧やくま川鉄道の全線開通を見据えた観光振興、外部人材の活用による産業・雇用の創出など、球磨川流域の創造的復興に向けた新たな一歩を踏み出します。

私は、これらの取り組みを通して、地域の皆様の「多くの力」が結集し、創造的復興への思いが一つになることで、これまでにない「大きな力」になっていくと信じています。

これからも、現場の声にしっかりと耳を傾けながら、地域の皆様と共に、球磨川流域の未来を創ってまいります。

令和七年七月四日

熊本県知事 木村 敬

